

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子南砂2丁目保育園
施設所在地	東京都江東区
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な表現を用いて、形に表す（発表会に向けて）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・日常のごっこ遊びやなりきり遊びを好み、空想の世界に入り遊びこむ姿が多く見られた。その為様々な絵本やお話を通じ、表現力や想像力を伸ばしながら劇遊びを楽しむことをねらいとした。

## 2. 活動スケジュール

①絵本に触れ、様々な話に触れる。
7月11日 表現講師と絵本をテーマに役を演じて遊ぶ。 毎月図書館に行き、絵本に触れる。
8月25日 お気に入りの絵本を選び、グループごとに絵本の世界を味わう。 プロジェクター投影した絵本を読み、感じたことを共有し合う。
②様々な表現方法を知る。
9月18日 絵本の世界を絵にする。チームごとに絵本をテーマにした絵を描いた。 また、去年考えた話を絵本にする。(画用紙、絵の具、マジックペン使用)
10月中旬 自分達で話を作る。チームごとに話を考え、発表し合った。
③自分達で考えた話を思い思いに演じる。
11月20日 図書館で絵本を見つける。クラスで1つのお話を考え、演じる。
12月14日 発表会でオリジナルストーリーを演じる。(スピーカー、マイク使用)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<ul style="list-style-type: none"><li>・画用紙、絵の具、ポスカ、マジックペン、筆をいつでも使える場所に置くことで想像したものをいつでも描ける環境にした。</li><li>・発表会では、スピーカー、マイク、マイクスタンドを購入し、人前で堂々と発言できるようにすることで表現力を伸ばした。また、音楽が好きな子にピアノを購入し、出来ることの嬉しさや楽しさを感じてもらえるようにした。</li><li>・表現講師(尾根秀樹先生、3回来園)</li><li>・8月19日、表現外部研修参加(5歳児クラス担任+3名スタッフ)</li></ul>
---

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

給食後に読書タイムを設け、絵本に触れる時間を増やした。ひらがなが読めない子はひらがなの歌や動画で楽しみながら覚えていった。毎月図書館訪問を行い好きな絵本を1人1冊選び、その絵本が好きな理由をみんなの前で発表した。プロジェクターに絵本を投影しながら「あたしはこういう時はこうするな」「ぼくはこっちの方が良いな」などと絵本についての話し合いを楽しんでいた。表現講師と、「三匹のヤギのがらがらどん」の絵本をテーマに表現遊びを行った。「がらがらどんに気付かれないように橋を渡るにはどうしたらいいか」についてグループごとに話し合い、それぞれの想像力を活かし言語化し、演じて遊んだ。また、くっつきげーむ、猛獣狩り、想像あそび等を日常的に行ったことで、何もないところでも想像して演じたり、発言したりして表現することを楽しんだ。保育者が「なんか床が！べたべたする！」と言うと「納豆だ〜！」「ほんとだ！！」と想像遊びに参加していた。

まずはグループごとに話を作り、発表し合った。初めは何が伝えたいのかわからない内容の物が多く、感想を言い合う際に「あれはどういうこと？」「少しここが分かりにくかった」と感想を言う子が多かった。しかし回数を重ねグループの発表を見せ合うことで、どういう表現方法が相手に伝わりやすいのか体感した様子で、話作りを繰り返していく度に行動を説明するナレーターを取り入れたり、相手に伝わるように演じたりと、表現方法に変化が見られた。最終的にクラスで1つの話を作り、衣装や小道具を製作し発表会で保護者や園児に笑顔で発表し、達成感を味わった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

①絵本に触れ、色々な話を知る。

図書館に毎月行き、自由に過ごすことで「私この絵本好きなんだ」「この絵本面白いよ」と自分の好みの絵本を見つけて他児と共有していた。1人1冊、みんなの前でお気に入りの絵本について発表し、その絵本の魅力について考えた。グループで1つの絵本を選び、プロジェクターに投影しながら「私はこんな誕生日の祝われ方が嬉しい」「僕はこのプレゼントが欲しい」「私はおめでどうって言うてくれたら嬉しい」などと意見を共有していた。選んだ絵本は部屋に飾り、子どもたちの手に届く場所に置いたことでいつでも見る事が出来るようにした。

②様々な表現方法を知る。

自分達で考えたお話を絵本にした。「あたしはこの場面を絵にしたい」と他児と話し合いながら進めていったが、お話に関係のない絵を描く子がいたため、「誰が見ても、伝わる絵だといいよね」と保育者が伝えると「これは関係ない絵が描いてあってわかりにくいかもね」「この絵はわかりやすい！ドアを壊している所でしょ！」と、それぞれ絵を見ながら感想を言い合い、訂正しながらより伝わるよう表現方法を考えていた。また、集まりの際などに想像あそびを頻繁に行い、保育者が「今からふわふわしたハムスターを順番に回します」と言うと、初めは「何もないじゃん！」という子が居たが、繰り返していくにつれて、すぐに受け入れるようになり「可愛い〜」「ふわふわ」と想像しながら触る動作を楽しんでいた。

③自分達で考えた話を思い思いに演じる。

一人一人なりたい役を決め、絵に表し、名前を付けてもらってから、その登場人物から出来るお話を話し合いながら考えた。

子「発表会の日の近くに〇〇ちゃんがお誕生日だから、お誕生日パーティーにしようよ！」

子「いいね！」

保「お話はどうやって始まるの？」

子「お誕生日の子が寝てる間にこっそりパーティーの準備するの！」

保「楽しそう！ダンゴムシ役とにんじん役の子はいつ出てくるかな？」

子「ダンゴムシがお部屋に入ってきて、プレゼントにするのは？」

子「そうしよう！」



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取組前はひらがなや絵本に興味がなく、好んで絵本を読む子が少なかったが、取組後は、絵本に興味を持ったり、声を出してひらがなを読んで喜んだりする子が増えた。また、定期的に図書館に行くことで時と場合を考えて周りを見る力が養われた。お話作りを始めてから、これまでは恥ずかしがったり立ったまま発言したり、あまり声を出さなかったりしていた子たちが、堂々と演じたり動作をつけながら発言したり歌を考えたりしながら表現を楽しむ姿が多く見られた。

劇遊び、表現遊びを日常的に取り入れた結果、子どもたちが表現することに対する緊張や抵抗が減ったように思える。また、グループやクラスでの話し合いを重ねていく事で、子ども達だけ話し合いが完結できるようになったり、相手の気持ちを考えて発言したり、自分の意見を言ったり、相手の意見を聞き入れたりする姿が増えた。子ども達だけで話し合いを進め、クラスで1つの作品を作り上げたことでクラスの団結力が高まり、その後のクラス活動や当番活動に声を掛け合いながら一体感をもって取り組んでいた。

自分たちで発表会の劇のシナリオを作り、演じたり、劇に必要なものを考え主体的に準備し本番を迎え達成感を味わっていた様子が見受けられた。その経験から卒園を控え、一緒に過ごしてきた年下の友だちへ感謝の気持ちを込めて、お店屋さんの開催（3月26日）を決めた。どんなお店にするか？

何を売るか？お店の装飾はどうするか？など自分たちも楽しみながら準備を進めている。自分たちが表現することの楽しさや面白さを感じることが出来た子どもたちは、培った表現方法を使ってお店屋さんに来てくれる人たちに楽しんでもらえるように、と考えることも楽しい様子である。